

百葉

Manyok

東日本大震災 面瀬小学校・宮古市への支援報告

『面瀬小学校へ記念すべき50回目の東北支援』

10月10日、気仙沼市立面瀬小学校へプロスペア・ポローニアの苗、図鑑、図書カード、レソト王国とタンザニア連合共和国からのプレゼントを贈呈しました。この支援は、品川エトワール女子高等学校の皆様にもご支援頂いております。街頭で募金活動をしてくださったと聞き、雨の日も暑い日もあったことでしょうかから大変であったと思います。感謝いたします。



面瀬小学校では4年生3クラス72名が迎えてくださり、3本のプロスペア・ポローニアを全員で植樹しました。ポローニアの木の特色として、二酸化炭素をたくさん吸うこと、成長が早く来年には2～3mになること、桐の木的一种であるが樹木ではなく草本類であることを説明すると、生徒たちは皆驚き興味を持ってくれました。責任を持って大切に育てるという気持ちで、全員がスコップやシャベルを手にとって皆で植樹をしました。

6年生になり卒業する時にどの位に育つか、ポローニアの木と背比べの競争が始まります。それまで一生懸命世話をして毎日成長を見守るとのことでした。でも、1年で2m育つということは2年で4mです。しかし、成長は背の高さだけではありません。ポローニアの木は約5年で成木になりますが、あと2年でどれだけ人間として成長できるか、ポローニアと競争ですね。

また、10月31日のハロウィンの日にちなみ、三角帽子とかぼちゃのシール等を後日送りました。喜ぶ生徒たちの姿が目につかびます。

後日、御礼に面瀬小学校みどりの少年団から向日葵と朝顔の種が、そして4年生の生徒さんからは感想を送って下さいました。皆、一生懸命ポローニアの木を育てると書いてくれていました。さらに、レソト王国とタンザニア連合共和国という国を初めて知った生徒も多く、「自分も世界に行きたい」と希望に燃える生徒もいました。この中から将来の国際人が育つかも思わないと思うと、大変楽しみです。

この度の支援で、一冊の会の東日本大震災被災地への支援が、記念すべき50回目を迎えました。荷造りは、一冊の会・大槻会長、林副会長（来年宮崎公立大学の学長に就任することとなりました。おめでとうございます）小山理事長、石田副理事長で行いました。

面瀬小学校への贈呈をコーディネートして下さった、斎藤篤さんに深く御礼申し上げます。

裏に続く

『宮古市への本の贈呈』

この度の東日本大震災による被災地へ一冊の会で本の贈呈をする際には、必ず幼稚園・小学校・中学校・高校向けに分け、贈呈先に合わせて送ってまいりました。本の専門家ではない素人である私達が分類するにあたって、幼稚園の年長向けがよいのか小学校1年生向けがよいのか、小学校6年生がよいのか中学校1年生がよいのかなど、悩む事が多くありました。必ず本のリストをお付けして、最終的には学校の先生に判断してもらってまいりました。

しかしこの度、宮古市から「こちらで分類し、しかるべきところに送るので、本を全部そのまま送ってほしい」とのお言葉をいただきました。このことは、大変ありがたい申し出でした。そこで、皆様からお寄せいただき事務所に保管してあった本をお送りいたしました。

本は宮古市津軽石保育所、宮古市立津軽石小学校、宮古市立津軽石中学校に送られ、御礼の写真が届きました。・児童・生徒の皆様の笑顔が嬉しい限りです。

宮古市への贈呈をコーディネートして下さった、中島榮さんありがとうございました。



長期の支援を継続できたことは、皆さまのお力添えがあつてのことです。ここに御礼申し上げます。2012年はもう1回支援活動を行う予定です。51回目の支援は、カレンダーと靴下、ハンカチ類になる予定です。一冊の会では、これからも支援を継続してまいりますので、2013年もどうぞよろしくをお願いします。皆様の真心は必ず被災地にお届けします。

図書担当 高橋美香子